

日本地球電気磁気学会会報 (第31号)

1968年4月1日

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目10の6
東京大学理学部地球物理学教室内
電話 03-812-2111 内線6476
板替 東京 4860

第43回総会議事申込について

第43回総会に議事申込或いは議案提出をなされる方は4月17日までに委員長宛に下記の要領で文書をお送り下さい(書式は任意)

提案者 氏名(代表者署名又は捺印)

議題

提案理由および要旨

議決の要否

送)先 東京都文京区弥生2-11-16
東京大学理学部地球物理学教室内
日本地球電気磁気学会事務所

第43回講演会論文発表申込

来る5月25~28日の第43回総会一般講演申込用紙をこの会報と同封いたしますので、所要事項記入の上4月16日までに当会事務

所宛お送り下さい。なお講演予稿集の原稿は同じく規定の同封原稿用紙を使用して5月10日必着で当会事務所宛お送り下さい。原稿はそのまゝゼロクス印刷となりますから、必ず黒インク若くは黒ボールペンを使用して丁寧に書き下下さい。書き損じた場合には当会事務所で再交付いたしますからお申越し下さい。

第4回国際大気電気会議についてのおしらせ

第4回国際大気電気会議が下記の通り開催されます。会議は公開で行われますが、会議運営の便宜上、出席御希望の方は氏名(ローマ字付)、学位、所属機関名を下記事務局へ4月30日迄にお知らせ下さい。

愛知県豊川市市田町

名古屋大学空電研究所

第4回国際大気電気会議事務局

石川 晴治

記

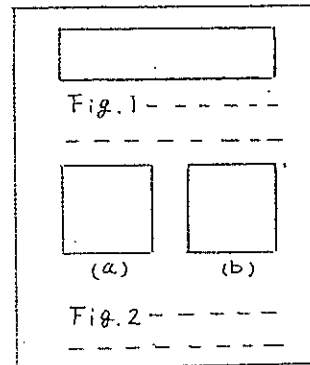
1. 場所 東京都港区赤坂葵町3 ホテル・オークラ
2. 日時 昭和43年5月12日—17日
3. セッション
5月12日 レジストレーション
" 13日 0800—0830 レジストレーション
0830—1730 (以下同じ)
*Simulation of Atmospheric
Electrical Phenomena
Thunderstorm Charging Mechanism*
" 14日 *Physics of Lightning
Monitoring of Global Thunderstorm
Activity*

5月16日 Planetary Atmospheric Electricity
 Planetary Atmospheric Electricity
 Measurements
 17日 Tropospheric Ionization
 Fair Weather Electricity

JGG 編集部からのお願い

すでに会報で御知らせしましたように、JGG第20巻、第1号から若干の変更があります。会誌の発行を順調にするため下記の件について御協力をお願いします。

- 1) JGGの予約・バックナンバー注文・入会申込みは、東京都文京区弥生町2丁目11番16号 東京大学理学部地球物理学教室 等松隆夫 まで。
- 2) JGGの原稿送り先は 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部地球物理学教室 前田 坦 まで。
- 3) JGGへの投稿は学会の会員・非会員にかかわらず出来ます。
- 4) 査読の便宜と編集業務のスピード・アップのため、原稿は3部（オリジナル1部とコピー2部）をお願いします。
- 5) 図の配列について御希望がありましたら、*Figure caption*の外にくわしい配列図（例えば右のような）を必ずつけて下さい。初稿で図の配列を変更しますと、凸版のやりなおしや組みかえに大へん時間がかかって次号にまわることがあります。



6) 外人と共著の場合は、初校の際に合計の別刷部数を記入出
 ように、あらかじめ連絡しておいて下さい。そして外人の別
 入が別でしたら、その旨指示下されは申込み用紙を本入あて
 ます。(外国では所属機関の承認を得るため、正式申込みが
 れることが多いので、部数のみ早く知りたく存じますから御
 下さい。)

7) 編集業務能率化のため初校と共にお返しする原稿コピーに
 コレクション(外人による)があるかも知りませんから、参
 して下さい。

Annals of the IQSY について

Annals of the IQSY の第1巻が MIT Press か
 近出版されました。この号及び続刊の各号について IQSY
 に関与した個人として購入するならば25%割引で(正価20
 のところを15ドルで)入手することができる旨 IQSY *Editi*
office から、日本のIQSY委員会に通知してきました。この
 を利用するには、IQSY委員会からの証明書を付けて、チェ
 か *international money order* か、ユネスコクーホ
 添えて直接6月30日までに IQSY *Editorial office* に
 まねばなりません。もしこの特典を利用して個人で購入された
 望をお持ちの方は、

東京都文京区弥生2-11-16

東京大学理学部地球物理 福 島 直

まで御一報下されは必要なIQSY委員会証明書をお届けしま

学会講演会方式に関するアンケートの集計結果報告

昨年6月、学会講演会方式に関してアンケートをお願いしましたところ、多数の会員の皆様に御協力頂き、ありがとうございました。以下に集計結果を報告致します。

回 答 数 1 8 3

内

I. 現状のままでよい	62	34%
II. どうでもよい	7	4
III. 改正すべし	83	45
無 記 載	31	17

改正する場合

A {	(1) パラレルセッションを現在より多くする	70	56%
	(2) " 現状程度	48	39
	(3) " なくする	6	5
	(計)	124	

B {	(1) 従来形式による原著講演	48	38%
	(2) 単 位 方 式	67	54
	(3) リポーター方式	9	7
	(4) そ の 他	1	1
	(計)	125	

以上の結果から結論出来ることは、

「従来方式を改善し、パラレルセッションを多くして、単位方式を採用する」

意見が最も多いということです。

尚、改正について、次の様な貴重な御意見が多数の方から寄せられました。

- (1) 従来通りの原著講演を尊重し、あくまで原著発表を第一表とすること。
- (2) 現在の方式の長所を失わないよう注意すること。
- (3) 新方式に移行する場合にも漸進的に、諸般の条件を考慮しながら慎重に行うこと。
- (4) 当面改善すべきことから
 - i) 講演時間の短縮
 - ii) 講演時間の厳守
 - iii) 講演予稿の活用と改善
 - iv) 原稿未提出者は講演を遠慮してもらおう
 - v) 講演ビラ及びスライドの改善
 - vi) プログラム編成の工夫と座長の運営により改善する

運営委員会としては、以上の集計結果と、寄せられた多くの貴重な御意見を尊重し、当面、出来る所から諸問題を改善して行くことを確認しました。

(担当、新野、北村委員)

ASOP グループからの提案について

本会々員小口高氏以下22名の会員から委員長宛にASOPグループの結成に関する依頼がまいております。ASOPグループの当会内部機構としての位置付けについては提案者および運営委員会相互に慎重に合議・検討の上、必要とあらば総会の議決を経て決定する事となります。御関心あるむきは小口高会員に御意見をお寄せ下さい。

記

昭和 43 年 2 月 21 日

日本地球電気磁気学会委員長

関 戸 弥 太 郎 殿

本学会は南極地域における地球電磁気学的研究及び観測に多大の関心をもち、また会員の多くが昭和基地及びその周辺における研究観測に従事して参りました。本学会有志は南極観測事業が恒久化され研究が進展するに伴い南極地域におけるこの種の研究の計画の立案及び将来計画の検討の為に本格的討論を行うべき時期に達したと見え、南極超高層研究観測長期計画グループ（ASOPグループ）を結成したいと考えます。

就きましては南極における超高層研究計画具申の母体として本研究グループを学会の内部機構として御承認頂き度く存じますのでよろしく御取計い下さる様御願ひ申し上げます。

ASOP グループ世話人

小 口 高

(別 紙)

グループ名：南極超高層研究観測長期計画グループ

(Antarctic Space Observation Planning Group)

略 称 A S O P

目 的 : 本グループは南極地域観測の恒久化に対応して南極地域における超高層の研究、観測を全体的な長期計画の下に拡充、強化し一層の成果を計る為のものである。

メンバー : 石川晴治 (名大空電研) 鎌田哲夫 (名大空電研)
小川 徹 (京大 工) 北村泰一 (同志社大工)
小口 高 (東大 理) 北村正丞 (気象 研)
大津仁助 (名大空電研) 小玉正弘 (理 研)
奥本隆昭 (阪市大 工) 国分 征 (東大 理)
金田栄祐 (東大 理) 斎藤尚生 (東北大 理)

(7)